

Arthramid® Vet

説明書



Arthramid® Vet

説明書

用法

Arthramid® Vetは、動物の骨関節炎（初期から後期まで）など、非感染性の跛行の治療薬です。

関節内注射用2.5%架橋ポリアクリルアミドハイドロゲルで、ルアーロック付き殺菌プレフィルドシリンジ（1 mL）としてご提供します。

投与

Arthramid® Vetは関節内注射専用です。対象となる種類の動物の処置に詳しい獣医師が必ず投与を行ってください。動物のストレスや苦痛を軽減するには鎮静剤を使用してください。常に無菌状態を保つようにしてください。

20から23 Gの注射針を関節内に刺し入れます。髄液の滲入を確認します。関節内組織を傷つけると24～48時間にわたって腫れが広がる場合があるため、できる限り傷つけないように注意します。

Arthramid® Vetシリンジの保護キャップを取り外します。シリンジを注射針のルアーロックソケットにしっかり差し込みます。シリンジが正しく取り付けられていることを確認します。Arthramid® Vetの用量は、

1～4 mLです。必要に応じて、処置中に新しいArthramid® Vetシリンジを取り付けて注入を続けます。

用量- 馬

用量依存性反応のエビデンスがあります。疾病の重症度や慢性度に応じて各関節の投与量を変えてください。例：軽度、中度、重度の関節症に対して、それぞれ1、2、3 mLなど。以下の推奨用量は、治療に対して観察された臨床効果に基づいて作成されています：

遠位指節間関節： **1～2 mL**

近位指節間関節： **1 mL**

球節： **1～3 mL**

手根関節： **1～3 mL**

足根中足関節/遠位足根間関節： **1 mL**

足根下腿関節： **2～3 mL**

肩関節： **2～3 mL**

後膝関節： **一週間ごとに1～2 mL**

初回治療によって一部効果が見られた馬は4～6週間後に二度目の投与を受けることによって改善がみられることが、公開されている臨床試験結果から示されています。

安全検査により、同じ馬の複数の関節に同時に治療を行っても安全性に問題がないことが示されています。



版權所有。Copyright © 2018, Innovative Medical Solutions Limited, 32 Hill Road, Cambridge, New Zealand.



作用

Arthramid® Vetは関節に注入されると、髄膜内層および内部関節包を直接取り囲んでいる組織に滲入します。クッションのように立体的で安定した構造を作り出し、細胞（滑膜細胞、マクロファージ、および巨細胞）を受動的に結合させ、それが次第に血管が通った薄い繊維網に代わっていき、新しい滑膜細胞内層によって覆われていきます。

物理的に緩衝することと、関節内の弾力性を保つことによって跛行と髄膜炎を治療します。

症例

関節痛を伴う疾病の複雑な経過を理解することは、臨床診療における継続的な課題となっています。他の疾病の経過と同様に正確な診断が欠かせません。

関節炎の症状は、関節の炎症で、一回のまたは複数回の外傷の後に発症する場合があります。髄膜炎、関節包炎、捻挫、関節内骨折、半月板断裂、骨関節炎が含まれます。軟骨下骨損傷に起因する場合もあります。

これらの病態は、「互いに共通点を持つ各種疾病の総称で、

病因は異なるも、類似する生物学的、形態学的、臨床的結果が見られます。」

従来の骨関節炎の概念では、発症に軟骨および骨の直接的で顕著な関与があることが強調されてきましたが、近年では髄膜も軟骨基質消耗の中心的な病態生理学的事象の一因となっていることが認められるようになってきました。

Arthramid Vet®による治療に適した症例は、臨床検査、関節内の痛覚脱失、X線撮影、超音波検査、MRI、CTスキャン、シンチグラフィーにより、跛行が関節に起因することが特定されている場合です。

Arthramid Vet®の効果が最もよくみられる病態には、急性および慢性の髄膜炎、関節包炎、骨関節炎、軟骨下骨嚢胞などがあります。注射の前に、感染症、併用医薬、手術、骨折の疑いについて病歴データを見直すことは不可欠です。それによって、感染症を予防する他、効果がない症状に対して本品を使用することを避けることができます。

「Arthramid® Vetの使用に適している症例は跛行が関節に起因することが特定されている場合です」

症例管理

治療後は、**48時間安静**にする必要があります。その後、低負荷の運動に戻ることができます。治療の効果が見え始めるまでに通常2～4週間かかります。

臨床検査によると、組織の統合とその後の関節包の増大には2～4週間かかります。しかし、治療の効果はもう少し早い時期から見られる場合もあります。

通常、治療後1週間以内に徐々に跛行をしなくなっていく、同時に髄膜炎の治癒と受動的屈曲への反応が見られるようになります。経過観察期間中、回復し続けます。4～6週間経つと回復が止まります。

一部治癒した場合は二回目を投与するか否か、あるいは診断の正誤を判断するために4～6週間後の再検査を推奨します。

オーナー様は、従来の治療法とは異なり、効果が表れるのにはタイムラグがあることをご理解ください。

このように効果が表れる期間が長いことから、通常よりも運動の必要が少ない期間や、トレーニングプログラムの初期の段階において、治療を行うことが賢明と言えます。

Arthramid® Vetは、軟骨下骨痛を緩和する薬と併用することが可能です。

直接軟骨下骨痛には作用しませんが、軟骨下骨板にかかるずり応力を減らすことで関節の機能を助けます。

関節の炎症をより速く鎮める必要がある場合には、獣医師は、従来のIA薬の使用を検討してください。Arthramid® Vetによる治療には2～4週間以上を要し、罹患関節のより長期的な管理をサポートします。

NSAIDの併用も有効です。禁忌症を発生することはありません。

「オーナー様は従来の治療法と異なり効果が表れるまでにタイムラグがあることをご理解ください」

ポイント

- 関節に起因する跛行に使用。関節内痛覚脱失症にも効果を発揮
- 関節滲出液がある症例、および屈曲に反応する症例に最も効果的。
- 早期治療のためにX線検査によって骨関節炎の変化を確認する必要なし
- 疾病の進行の重症度に応じて投与量を調節。
- 部分的な治癒に対しては初回治療の4～6週間後に二度目の注射が可能。
- 疾病経過管理中のトレーニングの軽減を推奨。組織統合段階においては、水泳、水中トレッドミル、陸上のトレッドミルなどの代替トレーニング方法を推奨



注射後

可能な場合は注射跡に包帯を巻きます。治療後は**48時間安静**にさせてください。

治療後1～2週間に、治療箇所組織統合が起こる間、一時的な浮腫および圧痛が出る場合があります。感染に起因するものでない限り、こうした症状は広がることはなく、数週間うちに解消されます。痛みや腫れを抑えるには、非ステロイド系抗炎症薬（NSAID）、冷却療法、安静、包帯による固定を行います。

重症の場合には非統合ハイドロジェルを除去するための関節洗浄も考慮する場合があります。Arthramid® Vetへのアレルギー反応は観察されていません。

他の医薬品と同様、関節内注射には感染症の危険が伴います。通常の予防策と厳密な無菌注射技術が不可欠です。Arthramid® Vet投与の2週間以内の副腎皮質ステロイドの局所または全身投与は、感染症が発見されにくくなるためお控えください。

オーナー様への情報

治療後の兆候、期待される結果、および合併症の可能性についてオーナー様へご説明ください。また、合併症を発症した場合は、注射を行った獣医師に直ちに連絡し、必要な治療を受けるようご指示ください。

保存

直射日光を避け、25°C未満で保存してください。冷凍しないでください。一度開封した注射を保存して使い回さないでください。

販売条件

弊社のウェブサイト www.arthramid.co.nz からご覧になることができます。

